

9. 試験結果

(1) 試験の結果は別表1-1～1-5による。

(2) 結果の判定

判 定 (いずれかを○で囲むこと.)	陽性	陰性
判定の理由 本被験物質は、S9 mix無添加及びS9 mix添加の場合とも、いずれの菌株においても、復帰変異コロニー数は陰性対照の2倍以上に増加しなかった。 2回実施した本試験には再現性が認められた。 本試験で用いた陽性対照物質は明らかな復帰変異コロニー数の増加を示した。また、陰性対照及び陽性対照における復帰変異コロニー数は背景データの範囲内にあり、試験条件を満たすものであったことから、試験系に影響した他の要因がなく、試験は適切に実施されたことが確認された。 以上の結果より、本被験物質は陰性と判定した。		

(陽性と判定した場合には、別表2比活性の表を添付すること。)

(3) 参考事項

[用量設定理由]

本試験の実施に先駆けて、試験濃度設定のために用量設定試験を実施した。用量設定試験の試験濃度は、「新規化学物質等に係る試験方法について」（平成15年11月21日）に従い、いずれの菌株も5000 µg/plateを最高濃度として、以下公比4で1250, 312.5, 78.1, 19.5, 4.88, 1.22及び0.305 µg/plateの計8濃度を設定した。対照として、全菌株に対し陰性対照及び陽性対照を設けた。

用量設定試験の結果から本試験(I)及び本試験(II)の濃度は、S9 mix無添加及びS9 mix添加の場合とも、菌の生育阻害を示さないと考えられる濃度が4濃度以上含まれるように、以下公比2で6濃度を設定した。すなわち、S9 mix無添加の場合、TA100及びTA1535では9.77, 19.5, 39.1, 78.1, 156.3及び312.5 µg/plate, WP2uvrAでは156.3, 312.5, 625, 1250, 2500及び5000 µg/plate, TA98及びTA1537では2.44, 4.88, 9.77, 19.5, 39.1及び78.1 µg/plateとした。S9 mix添加の場合、TA100では39.1, 78.1, 156.3, 312.5, 625及び1250 µg/plate, TA1535及びWP2uvrAでは156.3, 312.5, 625, 1250, 2500及び5000 µg/plate, TA98では9.77, 19.5, 39.1, 78.1, 156.3及び312.5 µg/plate, TA1537では2.44, 4.88, 9.77, 19.5, 39.1及び78.1 µg/plateとした。対照として、全菌株に対し陰性対照及び陽性対照を設けた。

(別表 1 - 1)

試 験 結 果 表

被験物質の名称： 2,4-ジフェニル-4-メチル-1-ペンテン (用量設定試験)

試験実施期間		2005年 2月 7日 より 2005年 2月 10日						
代謝活性化系の有無	被験物質の用量 (μg/プレート)	復帰変異数 (コロニー数/プレート)						
		塩基対置換型			フレームシフト型			
		TA100	TA1535	WP2uvrA	TA98	TA1537		
-S9 mix	陰性対照	111 (111)	10 (10)	51 (51)	19 (19)	13 (13)		
	0.305	136 (136)	17 (17)	48 (48)	17 (17)	3 (3)		
	1.22	146 (146)	8 (8)	46 (46)	9 (9)	6 (6)		
	4.88	125 (125)	16 (16)	35 (35)	17 (17)	9 (9)		
	19.5	118 (118)	13 (13)	47 (47)	20 (20)	13 (13)		
	78.1	137 (137)	17 (17)	44 (44)	13* (13)	14* (14)		
	312.5	114* (114)	10* (10)	33 (33)	22* (22)	8* (8)		
	1250#	126* (126)	13* (13)	49 (49)	16* (16)	7* (7)		
	5000#	125* (125)	16* (16)	48* (48)	22* (22)	6* (6)		
+S9 mix	陰性対照	146 (146)	9 (9)	41 (41)	29 (29)	20 (20)		
	0.305	137 (137)	16 (16)	36 (36)	26 (26)	15 (15)		
	1.22	138 (138)	16 (16)	44 (44)	31 (31)	18 (18)		
	4.88	154 (154)	14 (14)	49 (49)	32 (32)	19 (19)		
	19.5	127 (127)	11 (11)	46 (46)	29 (29)	21 (21)		
	78.1	137 (137)	17 (17)	40 (40)	28 (28)	19* (19)		
	312.5	139 (139)	7 (7)	42 (42)	17* (17)	20* (20)		
	1250	123* (123)	12 (12)	44 (44)	35* (35)	10* (10)		
	5000#	137* (137)	12* (12)	36* (36)	27* (27)	4* (4)		
陽性対照	S9 mixを必要としないもの	名 称	AF-2	NaN ₃	AF-2	AF-2	9AA	
		用量 (μg/プレート)	0.01	0.5	0.01	0.1	80	
		コロニー数/プレート	531 (531)	628 (628)	157 (157)	485 (485)	571 (571)	
	S9 mixを必要とするもの	名 称	2AA	2AA	2AA	2AA	2AA	
		用量 (μg/プレート)	1	2	10	0.5	2	
		コロニー数/プレート	957 (957)	312 (312)	843 (843)	352 (352)	187 (187)	

[備考]

1. 菌の生育阻害が認められる場合は、該当する数値の右上に*印を付すること。
2. 括弧内には各プレートのコロニー数の平均値を記入すること。
3. 復帰変異数は、被験物質用量の低い順に実測値及び平均値を記入すること。
4. プレート上で沈殿が析出した場合は、その用量に#印を付すること。
5. 略称で示された陽性物質の名称を欄外に記入すること。

AF-2: 2-(2-Furyl)-3-(5-nitro-2-furyl)acrylamide; NaN₃: sodium azide; 9AA: 9-aminoacridine hydrochloride;
2AA: 2-aminoanthracene.

(別表 1-2)

試験結果表

被験物質の名称： 2,4-ジフェニル-4-メチル-1-ペンテン (本試験 I)

試験実施期間		2005年 2月 21日 より 2005年 2月 24日												
代謝活性化系の有無		被験物質の用量 ($\mu\text{g}/\text{プレート}$)	復帰変異数 (コロニー数/プレート)											
			塩基対置換型						フレームシフト型					
			TA100			TA1535			WP2 $uvrA$			TA98		
-S9 mix	陰性対照	117 118 143 (126 $\pm$ 14.7)	12 17 19 (16 $\pm$ 3.6)	43 45 46 (45 $\pm$ 1.5)	13 19 22 (18 $\pm$ 4.6)	13 14 20 (16 $\pm$ 3.8)								
	2.44				16 21 27 (21 $\pm$ 5.5)	17 19 24 (20 $\pm$ 3.6)								
	4.88				20 25 28 (24 $\pm$ 4.0)	19 25 28 (24 $\pm$ 4.6)								
	9.77	97 104 111 (104 $\pm$ 7.0)	15 18 24 (19 $\pm$ 4.6)		16 20 20 (19 $\pm$ 2.3)	16 20 23 (20 $\pm$ 3.5)								
	19.5	114 116 130 (120 $\pm$ 8.7)	20 20 25 (22 $\pm$ 2.9)		17 19 19 (18 $\pm$ 1.2)	18 20 29 (22 $\pm$ 5.9)								
	39.1	100 100 103 (101 $\pm$ 1.7)	13 13 17 (14 $\pm$ 2.3)		20* 21* 21* (21 $\pm$ 0.6)	21* 22* 23* (22 $\pm$ 1.0)								
	78.1	97 105 118 (107 $\pm$ 10.6)	12 14 18 (15 $\pm$ 3.1)		15* 19* 27* (20 $\pm$ 6.1)	15* 17* 24* (19 $\pm$ 4.7)								
	156.3	88* 101* 104* (98 $\pm$ 8.5)	11* 16* 19* (15 $\pm$ 4.0)	44 50 60 (51 $\pm$ 8.1)										
	312.5	90* 109* 109* (103 $\pm$ 11.0)	15* 16* 17* (16 $\pm$ 1.0)	39 47 51 (46 $\pm$ 6.1)										
	625			37 51 54 (47 $\pm$ 9.1)										
	1250#			54 58 67 (60 $\pm$ 6.7)										
	2500#			38 41 44 (41 $\pm$ 3.0)										
	5000#			46* 55* 61* (54 $\pm$ 7.5)										
陽性対照	S9 mixを必要としないもの	名 称	AF-2	NaN ₃	AF-2	AF-2	9AA							
		用量 ($\mu\text{g}/\text{プレート}$)	0.01	0.5	0.01	0.1	80							
		コロニー数/プレート	470 544 548 (521 $\pm$ 43.9)	578 604 614 (599 $\pm$ 18.6)	165 168 171 (168 $\pm$ 3.0)	401 425 441 (422 $\pm$ 20.1)	339 393 481 (404 $\pm$ 71.7)							
	S9 mixを必要とするもの	名 称												
		用量 ($\mu\text{g}/\text{プレート}$)												
		コロニー数/プレート												

[備考]

1. 菌の生育阻害が認められる場合は、該当する数値の右上に*印を付すること。
2. 括弧内には各プレートのコロニー数の平均値を記入すること。
3. 復帰変異数は、被験物質用量の低い順に実測値及び平均値を記入すること。
4. プレート上で沈殿が析出した場合は、その用量に#印を付すること。
5. 略称で示された陽性物質の名称を欄外に記入すること。

AF-2: 2-(2-Furyl)-3-(5-nitro-2-furyl)acrylamide; NaN₃: sodium azide; 9AA: 9-aminoacridine hydrochloride.